

奥秩父	鴨沢から雲取山・三条の湯	No.055
-----	--------------	--------

昭和41年1月16日(晴のち薄曇り)

前回の山行からまだ五日しか経っていない。雲取山を取り巻くいくつかのルートを手探りで歩いてみたいと思い、地図とガイドブックで調べる日々となった。今回はコースを変えて、三条の湯に下ってみることにした。

今回は国立発4時53分の電車に乗り、氷川発7時35分のバスで鴨沢に8時25分に到着。

サブザックで身軽なのですぐに出発。歩きなれた道をセツ石小屋へ。

前回よりも所要時間を15分短縮して、セツ石小屋に10時25分に到着。5分の小休止で雲取山に12時50分に到着。ルートの様子が変わっているのがわかるので悩むことなく歩くことができ、効率が良い。今日は下山ルートが長いので、休憩時間は短めにしておくことにしたこともあり、ハイペースで推移している。

雲取山(2017.7m)までは五日前とほとんど変わらない。唐松の石尾根からの富士山も大菩薩も南アルプスも、頭に焼き付いたとおりの景観。13時05分に山頂を出発して、西側へ下る初体験。

小石の出た三条ダルミへの下りはところどころ凍結していて歩きにくい。

三条ダルミ(1759m)13時20分、唐松の霧氷のきらめきに驚きながら小休止。ここから三条の湯への下りはさらに悪い。1826m峰から南に伸びる小尾根の腹を巻き気味に急降下して行く。尾根の南端で北に向きを変えて西側の三条沢に下る。道はろうそく色に凍り付いて、我が二本の脚も思うに任せない。

ピッケルを突いて、壺坂靈驗記の沢市のような格好で歩くうちに三条の湯の煙が、そしてしばらく行くと屋根が……。三条の湯(1090m)15時45分、小屋の中を覗くと、年のころは21~22歳ぐらいの黒髪の娘が窓に背を向けてコタツで読書している。かすりの綿入れを着た背中姿がいかにも田舎臭くていい。

後日聞いた話だが、この三条の湯の娘は横浜のある山好きな女の子で、毎週来ているうちに山の中で暮らしたいとの一念から家を飛び出してきて、小屋の手伝いとして住み着いてしまった。冬になっても家に帰る気配はない……ということだそうだ。

彼女にガラス越しに会釈して通過し、青岩谷出合い(989m)16時。冬の、しかも谷間の16時はもう寒い。ここから後山川に沿った後山林道は長い。海拔573mの御祭へ向かって歩き始めたのだが……。

途中でスリップして困っているベレルを助けてやったところ、運ちゃん大喜びで氷川まで乗せてくれた。おかげで帰り道は暖かくてよかった。氷川駅着は18時15分、

18時58分発の電車で帰った。

以上



(修正・更新:2023年11月)